



# 校長室だより 2

黒部市立荻生小学校  
文責：校長 寺島紀子  
令和5年9月22日  
5年度第17号

今週に入り、6年生は図工の絵画作品づくりのために、思い出の場所とものを予めタブレットで撮影しようと校内を回っています。体育の授業や集会で思い出深い体育館、委員会でなじみのある保健室等々、それぞれの思いがあるようです。中には校長室前に飾ってある運動会のカップの前で思わず立ち止まり写真を撮る子も…。ほんの数日前の運動会の余韻がまだまだ残っていることだろうと思います。



## 心を一つに盛り上がった運動会 そして、その先へ・・・

去る16日(土)の運動会には、多数の保護者・ご家族。地域の皆様に応援していただき、ありがとうございました。絶好の運動会日和のもと、萩っ子141名が全員参加し、まさに「心を一つに」大きな事故やけがもなく思い切り運動会を楽しめたことが何よりでした。それぞれの中に勝ち負けを超えた感動が得られたものと思います。学校のHPや近日発行の学校だより「萩の里」や各学年だより、また次号のPTA広報「将就」でもそれぞれ記事が組まれますので、ぜひご覧ください。



さて、運動会が終わって、学校に1通のメールが届きました。それは運動会を観ておられた方からの感想のお手紙でした。そこには、上学年の鼓笛隊演奏について「みんなで心を一つにして演奏している姿が輝いていました。きっと繰り返し時間をかけて練習されたことが表れているのだと感じました」と、またリレーでの力走と応援する側の様子について「チーム萩生だと感じ、嬉しくなりました」と書いてありました。さらに最後は「これからも萩生小のよい伝統をさらに発展させ、笑顔あふれる学校になるよう、応援しています」と結んでありました。素敵なメッセージをありがとうございます。



萩生小学校の皆さんへ

短い時間でしたが、運動会を参観させていただき、その時に感じたことをお伝えしたく、ペンを執りました。

運動会のプログラムには、「萩っ子 ファイト!!～心をひとつに めざせ 優勝～」と掲げられました。上学年の鼓笛隊演奏では、一人ひとりが一生懸命に演奏していました。演奏に自信のない子供もいたかもしれませんが、その不安や心配以上に、みんなで心をひとつにして演奏し表現している姿が、輝いていました。心を合わせ、演奏を聴くことは簡単ではありません。きっと、繰り返し時間をかけて練習されたことが表れているのだと感じました。下学年の子供たちも地域の皆さんも、憧れの目で見つめていました。選抜リレーに選ばれた選手の力強い走りも素晴らしいのですが、それと同時に、応援していた皆さんの熱い思いと大きな声が選手の走りを支えていることも感じました。まさしく「チーム萩生」のようでした。拍手も自然に起きていました。そのお陰で見ている私も嬉しい気持ちになりました。素晴らしい運動会をありがとうございます。

水泳のオリンピック選手である寺川誠さんは「個人の能力や記録を伸ばすためにもチームワークはとても大切」と言っておられます。「萩っ子 ファイト」を合言葉に、全校で取り組んだ運動会のように、これからも、萩生小学校の皆さんと先生方が力を合わせ、心をひとつにして、萩生小学校のよい伝統をさらに発展させ、笑顔あふれる学校になるように頑張ってください。応援しています。

9月15日

参観した者より

このお手紙

のとおり、子供たちは自分たちの中にある「やればできる力」を十分に感じ取ることができたのではないかと、私は思っています。この嬉しい余韻をゆっくりかみしめながら、これからの学校生活をもっともっと子供自らが工夫し楽しみながら仲間と共に創っていってくださることを期待しています。



★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。

校長室だより第17号への感想

年 児童名

## 勉強の秋をエンジョイ！ 自学ノートは自分からどんどん取り組みましょう

ランチルーム給食が再開してから、自学ノートの表彰は給食の時間に行っています。21日（木）の表彰はちょうど1年と4年の姉弟ペアの表彰でした。2人とも見事5冊達成です。金メダルシールを校長から渡しました。

自学ノートはその名の通り、自分で内容を決めて取り組む家庭学習ノートです。人に言われてイヤイヤではなく、「今日はこれをしよう！」と楽しみながらコツコツと毎日積み重ねていってほしいと思います。

運動会が終わり、子供たちにとっての大きな行事はしばらくありません。

「〇〇の秋」の〇〇に「勉強」も加え、ぜひ進んで学ぶ荻っ子になってほしいと願っています。

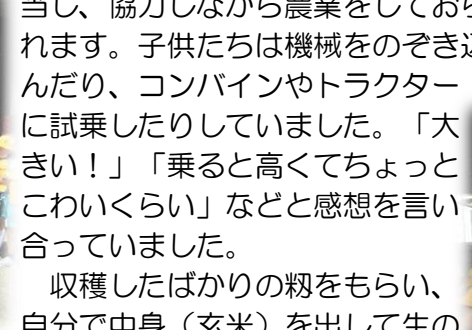
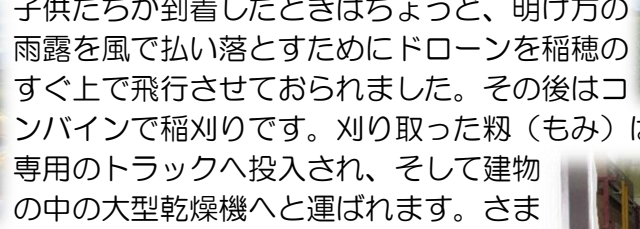


## シリーズ「教室におじゃまします」 9/20(水)3年社会科の巻

3年社会科の担当は芦崎先生ですが、この日は担任の長島先生も引率し、農家のお仕事見学です。学校前の道をまっすぐ東へ行ったところに荻生ライスセンターがあります。子供たちが到着したときはちょうど、明け方の雨露を風で払い落とすためにドローンを稲穂のすぐ上で飛行させておられました。その後はコンバインで稲刈りです。刈り取った籾（もみ）はコンバインのアームから専用のトラックへ投入され、そして建物の中の大型乾燥機へと運ばれます。さまざまな機械を駆使して行う一連の作業を、子供たちはあっけにとられたように見つめ、時々ハッと思い出したようにメモをとっていました。

ここでお米を作る農家は松島さんご一家と細野さんご夫婦ですが、コンバインやトラクター等のメンテナンスは農機具のプロの中西さんが担当し、協力しながら農業をしておられます。子供たちは機械をのぞき込んだり、コンバインやトラクターに試乗したりしていました。「大きい！」「乗ると高くてちょっとこわいくらい」などと感想を言い合っていました。

収穫したばかりの籾をもらい、自分で中身（玄米）を出してそのまま試食する子もいました。「少し甘い…かな？」 近くて遠い農業の現場で貴重な体験をさせてもらっている子供たちでした。



**おまけのくひとこと** > 荻生ライスセンターの松島さんご一家は3年の松島さんのご家族、そして細野さん夫婦はもっとお若い（多分）ご夫婦です。専業農家としての覚悟と誇りをもって地に足を付けて働いておられる姿に頭が下がります。さて、その松島さんいわく、今年は夏の猛暑でコシヒカリの品質にやや不安があるとのこと。「この機会に品種・銘柄にこだわらずいろいろなお米を食べてみるのがいいかもしれないね」と珍しいお米を子供たち一人一人にくださいました。その名も「にじのきらめき」。小袋を少し多めにいただいたので、私も1袋を家に持ち帰りました。いったいどんな味なのかな？ 週末に炊いてみようと思います。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。